

彼方「あなた」

校長通信
H25.4.10
Vol.2

【平成二十五年 第六十七回 入学式 式辞】

一六七名の新入生の皆さん！本校への入学おめでとうございます！保護者の皆様、本日は誠にありがとうございます。

また、ご多用中にもかかわらず本日ご臨席を賜りました我孫子市長 星野順一郎様、教育委員長 川村敏光様を始め、多くのご来賓の皆様には心より感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

さて、新入生の皆さん、入学式のこの校長式辞は、私が皆さんと一緒に作る中学校で最初の授業です。これから「人としての生き方」について一緒に考え、勉強する機会をつくっていききたいと思えます。

昨年度二年生の先輩方が入学したときは、「挑戦」というテーマで、アフリカの祈禱師が雨乞いの踊りをする必ず雨が降るといってお話しをしました。なぜ降るのか、答えを知りたい人は、是非部活動に入ったら二年生に訊いてみてください。

今日は少し難しい問題を出します。今から十三年前、新入生の皆さんが生まれた年にアメリカで「ペイ フォワード」という映画が作られました。皆さんと同じ中学校一年生になるトレバー少年が主人公のお話です。社会科の授業で「もし君たちが世界を変えたいと思ったら、何をします？君たちの手で世界を変える方法について考えよう」という課題が出

されました。この難題に彼が出した答えは何だったと思いますか？

中学校一年生のトレバー少年が考えた奇想天外なアイデア、それは、他人から受けた厚意をその人に返すのではなく、まわりにいる別の三人の人に贈るというとても簡単なアイデアです。でもそれを実現させるには、みんなが実際に行動に移さないとまくいかな方法なのです。実は、これと似たお話しを辞校式の日卒業生と在校生にしました。それは、「恩送り」という日本に古くから伝わる考えです。「恩返し」ではなく、自分が受けた恩を別の人に贈るといってお話です。トレバー少年が考えた方法「ペイ フォワード」は、日本の「恩送り」という考え方と全く同じです。

でも彼の発想のすごいところは、三人に贈るところです。一人から三人、三人から九人、九人から二十七人、三倍で増えていきます。六回も繰り返されれば七二十九人、十一回繰り返せば我孫子市の人口十三万人を軽く超えるのです。アメリカでは実際にその映画を機に「ペイ フォワード」運動が巻き起こったそうです。ドライブスルーで買い物をした人が、「後ろの人たちの分も払っておくよ！」といった多めの料金を置いて行った人がいます。その次の人はそれを聞いてまた少し多くのお金をおいていったそうです。その寄付がなくなることはなかったそうです。

テレビや新聞で耳を疑うようなニュースが流れるたびに悲しい嫌な思いをします。「今のこの世の中は本当に大丈夫なの？」と思うこともあります。みな

さんはどうですか？でも、そういう事を見聞きしても「自分に解決できる訳もないし…、関係ない…」と考え、日々の生活を送っていると思います。でもトレバー少年の社会科の先生は、「自分でできることを考えなさい」と課題を出したのです。

『人』が集まって『市』になり、『市』が集まって『県』になり、『県』が集まって『国』となり、『国』が集まって『世界』を構成しています。ということは、ひとりの『人』が変われば、やがて『世界』も変えられるかもしれないということです。この可能性をトレバー少年は考えたのです。

『人』が集まって『学級』が作られ、『学級』が集まって『学年』になり、『学年』が集まって『学校』となるわけですから。学校に小さな「ペイ フォワード」運動を巻き起こせば、たった五回繰り返すだけで学年が厚意で溢れるのです。

そしてそれを実現させるためには、考えを行動に移せるかどうかなのです。明日からの学校生活でいくつできるか、アフリカの祈禱師のように「挑戦」してみてください。

最後になりますが、保護者の皆様、ご臨席ただいご来賓の皆様、そして地域の皆様！ここにいる一六七名の新入生のために、そして在校生のために、湖北中を本当に楽しくて、みんなが助け合える「地域の学校」にするためにお力添えを頂き、「ペイ フォワード」運動にご協力くださいますようお願い申し上げます。

平成二十五年 四月九日

我孫子市立湖北中学校 校長 田中 聡